

多胎児をもつ家族への育児支援

—看護職からの双子の育児に関する情報提供の実態から—

大高恵美¹⁾ 山本捷子²⁾ 奥山朝子³⁾

Support for Infant Rearing to Families with Multiplets —Actual conditions of information furnishing by nurses on twins rearing—

Emi OHTAKA Shoko YAMAMOTO Asako OKUYAMA

要旨：本研究は、秋田市内の総合病院5ヶ所の看護職と秋田県内の双子をもつ母親を対象として、看護職の双子の育児に関する情報提供の実態と双子をもつ母親が看護職に求める育児情報についてのアンケート調査である。

看護職の90%が双子をもつ母親に対し、双子の育児に関する情報提供を行う必要があると答えたが、実際に行っている看護職は全体の54%であった。また看護職から双子の育児に関する情報提供を受けたと答えた母親は10%以下であった。

看護職が提供している情報は、おむつ交換、沐浴などの育児方法と授乳方法が中心であった。一方、母親は看護職に対して、出産前は育児書や育児サークルに関する情報、出産後は双子に特有の授乳方法や育児の工夫などの情報を求めており、看護職が提供している情報と母親の必要とする情報に差異が認められた。

キーワード：多胎児、育児支援、看護職の情報提供、双子の育児

Summary : In this study, a questionnaire survey was conducted on nurses in five hospitals in Akita City and mothers with twins in Akita Prefecture to investigate how nurses actually guide mothers in twins rearing and what kind of information mothers with twins wish nurses to furnish them with. 90% of the nurses considered they should provide twins mothers with information on twins rearing although 54% of the nurses answered they actually did so. 10% or less of the mothers were provided by nurses with information on twins rearing. Information provided by nurses included mainly how to rear twins, for example, how to change diapers, give twins a bath, and lactate them. On the other hand, the mothers wished for information on books and circles for twins rearing before childbirth and twins-specific information on, for example, methods for lactating twins and ideas for rearing twins after childbirth. Thus, it was found that the information actually provided by nurses and that demanded by mothers was different.

Key words : multiplets, support for infant rearing, information provided by nurses, twins rearing

はじめに

出生率の低下による少子化が問題になっている中で、近年の多胎児出生の増加は注目すべき動向となっている¹⁾。多胎児の出生増加にともない、多胎児を育てる母親の心理面・健康面での問題や多胎児の育児に関する情報の不足、多胎児特有の育児上の問題や課題について指摘する研究報告が

多く見られるようになった^{2) 3) 4)}。

大岸²⁾、服部⁵⁾らの調査によれば、双子の母親のほとんどが、援助して欲しかった人として、「双子の母親」に次いで、病院の助産婦、看護婦が多かったと述べている。

ところがこのような期待の一方で、多胎児の育児知識を医療従事者から習得した母親は極めて少

看護学科 1) 助手 2) 教授 3) 講師

本研究は、平成9年度本学の共同研究費助成をうけたもので、一部は第29回日本看護学会母性看護分科会において報告した。

ないことが報告されており^{2) 6)}、医療機関が多胎児の育児に関する情報源として十分機能していないことが指摘されている³⁾。

しかし、これらの先行研究は多胎児をもつ母親のみを対象としており、育児指導や育児情報を提供する立場にある看護職を対象とした調査は筆者らの知る限りでは見あたらなかった。

看護職は、多胎出産の母親に対し個別に関わる機会も多く、効果的な育児指導や育児情報を提供できる立場にある。母親が看護職を援助者として期待しながら、看護職から知識を得たとする人が少ない理由としては、看護職が提供する育児情報と母親が求める情報の間に差異があるのではないかと筆者らは考えた。

そこで、看護職ならびに双子をもつ母親を対象として、看護職の双子の育児に関する情報提供の実態と双子をもつ母親が求める情報について調査し、望ましい育児に関する情報提供のあり方について検討した。

<用語の操作的定義>

看護職：総合病院の産婦人科・小児科の外来および病棟に勤務している助産婦・看護婦。

情報提供：看護職が母親に指導・助言することや母親の質問に答えるなど、育児に関する知識を伝達すること。

I. 研究の目的

1. 看護職が行っている双子の育児情報の提供に関する意識と実態を明らかにする。
2. 双子をもつ母親が出産前後に求める育児情報の内容や看護職に求める情報の内容を知る。
3. 母親の求める情報と看護職が提供している情報の間の差異について分析し、看護職からの育児に関する情報提供のあり方について考察する。

II. 研究方法

1. 調査対象

看護職：秋田市内5カ所の総合病院の産婦人科・小児科の外来および病棟の看護職230名。

母親：秋田県内に在住し、双子の育児サークルに参加している母親41名。

2. 調査期間

平成10年5月～6月

3. 調査方法

アンケート調査法。

看護職ならびに母親に対して、それぞれ質問紙を作成し、看護職には各施設の看護部の了承を得て、質問紙の配布を依頼した。母親には、育児サークルを通じて同意を得て、個別に質問紙を郵送した。回答は無記名として、それぞれ個別に郵送法で回収した。

III. 結果

1. 分析対象

看護職の回収率は65%、有効回答数148、有効回答率64%であった。母親の回収率は76%、有効回答数31、有効回答率76%であった。

1) 看護職の背景 (表1参照)

看護職の職種は助産婦66名(45%)看護婦82名(55%)であった。1年以上の勤務経験者が121人(83%)を占めていた。

表1 看護職の背景

数 項目		計 n=148	内訳	
			助産婦 n=66	看護婦 n=82
勤務場所	産婦人科病棟	76	56	20
	産婦人科外来	12	5	7
	小児科病棟(NICU含む)	46	5	41
	小児科外来	13	0	13
	無回答	1	0	1
調査場所での勤務経験	1年未満	24	7	17
	1年以上3年未満	32	14	18
	3年以上5年未満	27	10	17
	5年以上10年未満	32	14	18
	10年以上	32	21	11
	無回答	1	0	1
年齢	20代	54	30	24
	30代	51	23	28
	40代	33	8	25
	50代	10	5	5
育児経験	有	72	25	47
	無	75	41	34
	無回答	1	0	1

単位(人)

2) 双子をもつ母親の背景 (表2参照)

双子を出産した際に、初産であった人が25人(81%)、経産であった人が6人(19%)であった。総合病院での出産が20人(71%)であった。出生時の子どもの状態が、二人ともまたは片方が低出生体重児であった母親は84%であった。

表2 母親の背景

項目		数 計 n=31	内 訳	
			初産婦 n=25	経産婦 n=6
双子出産時の年齢	20歳以上25歳未満	4	4	0
	25歳以上30歳未満	17	14	3
	30歳以上	10	7	3
家族構成	核家族	20	17	3
	複合家族	11	8	3
出産病院	総合病院	20	17	3
	個人病院	11	8	3
調査時の子どもの年齢	1歳未満	2	1	1
	1歳以上3歳未満	6	4	2
	3歳以上7歳未満	15	15	0
	7歳以上13歳未満	7	4	3
	13歳以上	1	1	0
出生時の子どもの状態	二人とも低出生体重児	16	13	3
	片方が低出生体重児	10	8	2
	二人とも低体重出生児でない	5	4	1

単位 (人)

2. 調査結果

1) 看護職:

1) - 1 看護職の情報提供の必要性の認識

看護職は、出産前に92%、出産後に88%が双子の育児に関する情報提供をする必要があると答えている。(図1参照)

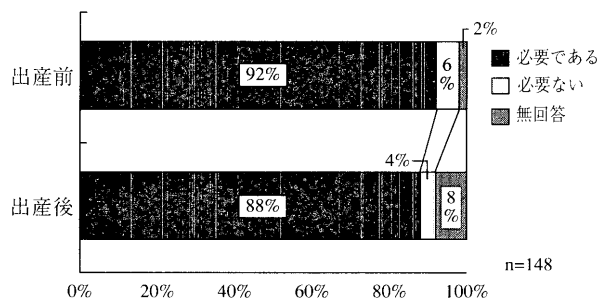


図1 看護職からの双子の育児に関する情報提供の必要性

情報提供の必要がないと答えた理由としては「無事に出産する方が大事」「育児に関する指導や相談は出産後に行えばよい」「母親によけいな不安を与える」「現在の勤務状況では情報提供する時間がない」「一般の育児書に書いてある」「双子の育児に必要な技術は一人の時と変わらない」「母親に育児経験があればいい」などの意見が見られた。

また、看護職が提供する必要があるとする情報の内容は、出産前後とも、おむつ交換・沐浴・入浴などの「育児方法」に関するものが最も多かった。次いで、出産前には、「家族や家族以外の協力体制」「育児書・サークル」「育児用品」などについて、出産後には「授乳方法」に関する情報提供が必要と答えた人が多かった。(図2参照)

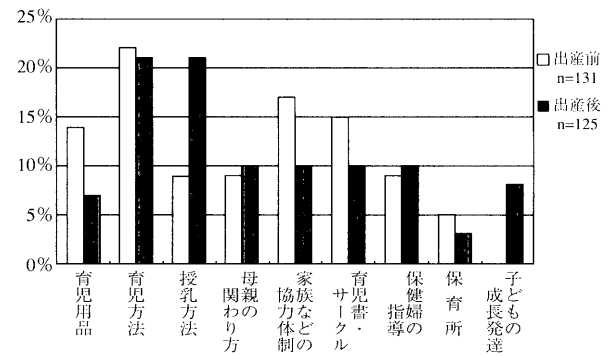


図2 看護職が提供する必要があると考える情報の内容(複数回答)

1) - 2 看護職の情報提供の有無と時期

双子の育児に関する情報提供を実際に行っている看護職は、80人(54%)であり、時期は出産前に行っているが53人(36%)、出産後は74人(50%)であった。(図3参照)

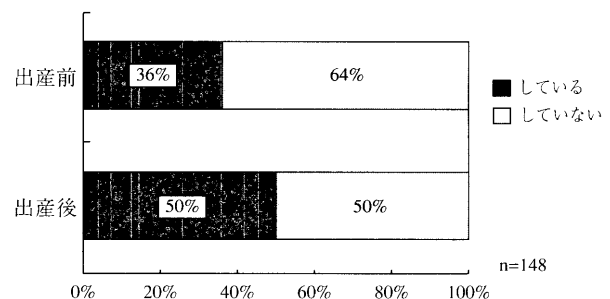


図3 看護職からの双子の育児に関する情報提供の有無

1) - 3 看護職からの育児に関する情報の内容

看護職が実際に情報提供している内容は、「育児方法」が出産前29%、出産後30%で、ともに最も多かった。出産前は、次いで「家族や家族以外の協力体制」18%、「授乳方法」14%が多く、「育児書やサークル」の紹介は9%と少なかった。出産後は、次いで「授乳方法」22%が多く、「育児

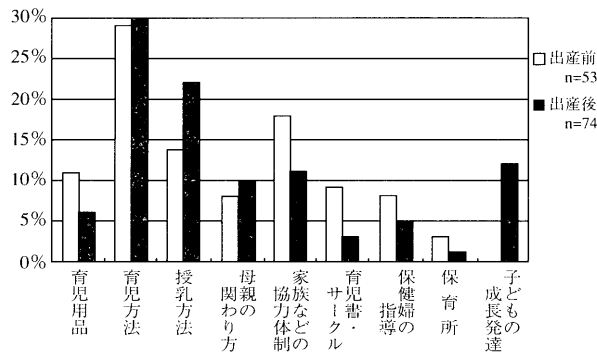


図4 看護職が提供している情報の内容 (複数回答)

書やサークル」は3%と少なかった。(図4参照)

1) - 4 母親に質問されて困ったこと

母親に双子の育児について質問されて困った経験がある人は17人(11%)で、その内容は育児サークルの有無や加入方法について、退院後の育児相談の機関、同時授乳に関する質問であった。

2) 双子をもつ母親:

2) - 1 育児に関する情報の入手方法

母親は育児に関する情報を出産前後ともに育児書・育児雑誌、多胎児の育児サークル、肉親・友人等から得ていた。看護職から情報を得た人は10%以下であった。看護職から情報を得たと答えた人は出産前4人、出産後3人と僅かであった。(図5参照)

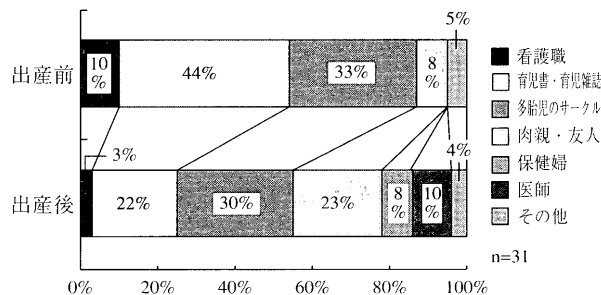


図5 母親が双子の育児に関する情報を得た方法 (複数回答)

2) - 2 母親の育児に対する心配の有無

出産前に双子の育児に対して、心配があった人は23人(74%)で、うち初産18人(78%)、経産5人(83%)であった。また、出産前に育児に関して知りたいことがあったと答えたのは初産23人(92%)、経産5人(83%)、出産後に知りたいことがあったと答えたのは、初産22人(88%)、経産5人(83%)であった。(図6参照)

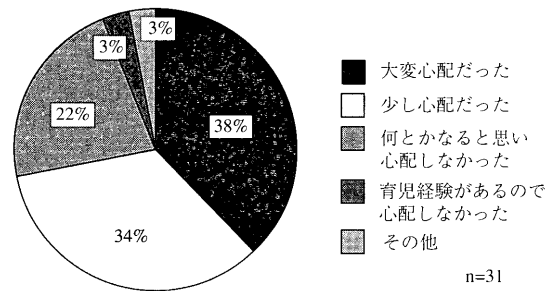


図6 母親の出産前の育児に関する心配 (複数回答)

2) - 3 母親が求める育児に関する情報の内容

母親が育児について知りたい内容は、出産前は「育児方法」24%、「育児書・サークル」21%、「育児用品」20%に次いで「授乳方法」17%が高い割合を占めていた。出産後は「授乳方法」27%「育児方法」21%、「子どもへの関わり方」21%が多かった。(図7参照)

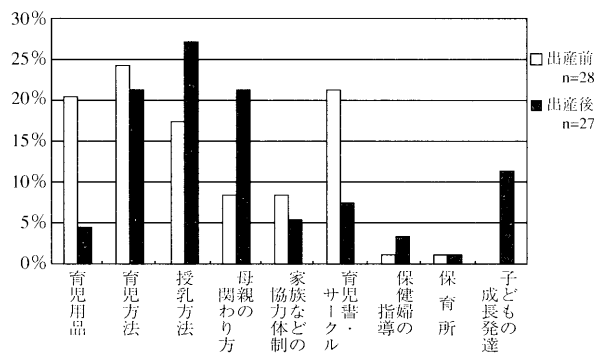


図7 母親が育児について知っていた情報の内容 (複数回答)

2) - 4 母親が看護職に求める情報の内容

看護職に教えて欲しいことがあった母親は出産前後共に18人(58%)であった。特に初産の母親では72%が看護職からの情報提供を望んでいた。

母親の自由記述には、出産後に利用できる「双子のサークル」「多胎児向けの育児雑誌・書籍」「授乳方法」について、出産前に教えてほしいという内容が多く、出産後は「二人同時に授乳する

方法」「二人の授乳時間のズレに対する工夫」「二人同時に泣いたときの対応の仕方」など双子の「授乳方法」や「子どもへの関わり方」「育児の工夫のしかた」等が多かった。また、家族の協力の必要性について、資料など具体的なものを掲示し、家族に働きかけて欲しかったという意見もあった。

IV. 考 察

1. 看護職が提供している情報と母親が必要とする情報の違い

看護職の90%が双子の育児に関する情報提供を行う必要があると考えているが、実際に情報提供していると答えた人は半数であった。これに対し母親の方は看護職から情報を得たとする人は大岸²⁾大城⁵⁾らの先行研究の結果と同様であった。

看護職が提供している情報の内容は、出産前後とも、育児方法や授乳方法が多く、育児書やサークルの紹介は少なかった。それに対し、母親は出産前は、特に双子の育児サークル、多胎児向けの育児雑誌・書籍に関する情報を求める傾向が強かった。また、出産後は「二人同時に授乳する方法」「二人同時に泣いたときの対応の仕方」など、双子に特有の授乳方法や子どもへの関わり方など、具体的、実地的な情報を求めていることがわかった。

看護職が提供している情報と母親が求める情報を対比してみると、出産前にも、また後にも差異があることがわかった。この理由としては、看護職が出産前は無事に出産することを優先させていたり、育児に関して双子特有の問題があるとはとらえずに、子どもが一人の時と同じ内容の情報提供で終わっている場合が多いのではないかと考えられる。

2. 出産前の情報提供

特に初産の母親は出産前から育児について心配があり、育児情報を得る方法についての情報を求めている。すなわち、出産後に予測される心配ごとを予め解決するための知識を求めている。双子の育児は双子というだけで、経済的にも、時間的にも困難を予想することは当然であり、そのことが予期的不安として、出産前に強くなることは容易に想像されるし、実際に双子を出産した多くの母親から聞かされた事実である。

波多野⁷⁾は、育児不安を軽減するための看護婦の関わりとして、看護婦は家族に対して、共通の

問題をもつ親同士の話し合いを勧めたり、親の会を紹介することも大切であると述べている。筆者らも看護職は出産前の母親に対して、同じ立場の双子をもつ母親から情報を得るための機会を提供したり、双子の育児サークル、多胎児向けの育児書を紹介するなど育児情報を提供する必要があると考える。

3. 出産後の情報提供

浅見⁸⁾は双子の母親が妊娠中から授乳について強い不安をもっていることを報告している。今回の調査でも、授乳方法について知りたいという母親が多かった。波多野⁷⁾は看護婦が家族指導を行う際には家族の直面している問題を正しく把握し不安や悩みに共感と理解を示すことが大切であると述べていることから、母親が出産後に戸惑ったり困ったりするであろう双子の授乳方法や育児の具体的な工夫の方法などを、情報提供の中に盛り込む必要があると考えられる。また、看護職は母親が授乳に関して、親自身が良い方法を生み出せるように、出産後は具体的な工夫や配慮の仕方を助言したり励ますことが大切であると考ええる。

また、出生後の子どもの成長発達についての情報は、双子の場合は低出生体重児が単胎に比べ多い⁹⁾ことから、看護職が非常に重要な情報提供者として期待される部分であると考えられる。

看護職は、専門職として母親の期待に応えるためにも、双子の育児に共通する不安や悩みに対し共感と理解を示し、出産前から育児に必要な情報を提供していくことが必要であると考ええる。

本研究の限界は、①調査対象とした双子の母親が出産した施設と看護職の勤務している施設が必ずしも同じとは限らないため、データを直接対比できない。②看護職の施設により、双子の分娩件数に差があるため、一般化することは困難である等があげられる。

V. 結 論

今回の調査により、以下のことが明らかになった。

1. 看護職の約90%が双子をもつ母親に対し、双子の育児に関する情報提供を行う必要があると考えているが、実際に情報提供していると答えた人は約半数であった。

2. 母親が知りたい双子の育児に関する情報は出産前後で異なっており、看護職の提供している情報と母親の必要とする情報には差異がある。
3. 母親は看護職に出産前は双子の「サークル」や「多胎児向けの育児雑誌・書籍」「授乳方法」について、出産後は双子に特有の「授乳方法」や「育児方法」など育児技術、「子どもへの関わり方」「子どもの成長発達」などの情報提供を望んでいる。

おわりに

今回の調査にご協力くださいました皆様に心よりお礼申し上げます。

引用文献

- 1) 今泉洋子, 人口動態統計から見た多胎出産の動向, 厚生省の指標, 40 (6), pp3-8, 1993
- 2) 大岸弘子, 多胎児育児の現状から育児支援を考える, 平成7年度厚生省心身障害研究報告「多胎妊娠の管理およびケアに関する研究」報告集, p153, 1996
- 3) 早川和生, 多胎出産の増加とファミリーケア新カリキュラム展開ブックNo10, pp64-68, 1996
- 4) ツインキッズクラブ編集, 双子・三つ子・四つ子・五つ子を育てている家庭の実態と意識報告集, p54, 1996
- 5) 服部律子・矢野恵子, 出生から3カ月までの双子の保健指導(第2報)―母乳哺育を可能にする因子について―, 母性衛生, 36 (4), p434, 1995
- 6) 大城治他, 双生児の育児について, 日本公衆衛生学雑誌, 38 (10), p534, 1991
- 7) 波多野梗子・村田恵子, 患者・家族への援助と看護婦の役割, p111, 医学書院, 1994
- 8) 浅見恵梨子他, 双生児の育児現状と支援に関する一考察, 日本公衆衛生学雑誌, 44 (10), p833, 1997
- 9) 早川和生, 双子の母子保健マニュアル, p72, 医学書院, 1993

参考文献

1. 天羽幸子, ツインマザーズクラブ ふたごのお母さんへ, プレーン出版, 1992
2. 井上祐司・高階千江子他, 秋田県における多胎児の支援のあり方の研究, 平成7年度厚生省心身障

害研究報告「多胎妊娠の管理およびケアに関する研究」報告集

3. 大岸弘子, 双子とその母親のケア, ささら書房, 1993
4. 竹内豊他, フォーラム「多胎児育児を巡る問題点」, 平成6年度厚生省心身障害研究報告「多胎妊娠の管理およびケアに関する研究」報告集, p165, 1995
5. ツインキッズクラブ編集, ミラクルママの実践双子育て, ビネバル出版, 1991
6. 南野智恵子, 多胎妊娠の与える衝撃-家族援助における助産婦の役割, ベリネイタルケア1 (16), pp78-84, 1987
7. 早川和生, 多胎児のファミリーケア, 近畿新生児研究会誌, 3 (1), pp44-47, 1994
8. 早川和生, 少子社会における多胎出産の増加と地域母子保健活動, 大阪公衆衛生, 68, pp10-11, 1995
9. 又吉國雄, 双子育児の現状と問題点, 小児科臨床, 48, pp1507-1514, 1995
10. 水上千賀他, 双子の母親への退院指導について, 旭川赤十字医誌, 10, pp72-74, 1996
11. 三井政子他, 双胎出産をめぐる生活上の諸問題, 母性衛生, 29 (1), pp98-104, 1988
12. 横尾京子, 未熟児および双生児と母乳哺育, ベリネイタルケア4 (14), p221, 1985
13. 横田和恵他, 双胎児をもつ母親の育児に関する調査, 大阪母性衛生学会雑誌, 26, pp82-85, 1990
14. 吉田啓治著, 多胎妊娠の基礎知識, ビネバル出版, 1996
15. レーネ・ロノウ, 加藤則子監修, ふたごの妊娠出産・育児, ビネバル出版, 1992